

引津人権だより

糸島市人権・同和教育推進協議会 引津支部

令和5年11月1日発行

第35号

市同協引津支部事務局

糸島市立引津コミュニティセンター

TEL/FAX 092-328-0855

交通と人権



引津校区人権・同和教育指導員 坂口 久美子

令和5年9月21日、「鉄道と人権」というテーマで門司港レトロ地区を巡るフィールドワークを行いました。訪ねたのは九州鉄道記念館、門司港駅、関門海峡ミュージアムなどの門司港レトロ地区を巡りました。

門司港エリアは日本近代化のなかで“発見“されたまち(かつては小さな漁村)です。それが筑豊炭田からの輸出港適地として着目され、八幡製鉄をはじめとする近代産業の発展とともに九州の鉄道拠点として賑わいを増してきました。けれども関門トンネル、関門大橋、新幹線といった時代の変化とともに交通要衝としての地位はなくなり、門鉄の街としての面影は消えてしまいました。

鉄道は産業経済の推移や技術革新とともに役割や地域との関係も変わっていくのは仕方のないことかもしれません。現在、ローカル線では無人駅が増え、障がい者にとって介助のない駅は使いづらいという状況がつのっています。ローカル線が存続している間はまだいいのですが、利用減少→赤字拡大で路線廃止となつたあとの代替バスサービスが廃止されたり、存続の危機にあるという状況が全国各地で起きているという話を聞き、「地方と鉄道(交通)」の問題はこれからますます難しい局面を迎えることになりそうです。

「鉄道と人権」というのはなじみのないテーマでしたが、それを「交通」や人間の「移動」ということで考えてみると、自分ごと、わが地域のこととして浮かび上がるのではないかでしょうか。日々の買物や通院の多くは移動なしではすまされません。人口減少・高齢社会にあって移動は生活に必要不可欠で人生の質そのものにも影響を与えています。

日本国憲法を開いてみると、第22条第1項に「何人も、公共の福祉に反しない限り、居住、移転及び職業選択の自由を有する」と明確に記され、「移転(移動)の自由」は基本的人権として規定されています。「移動の自由」は生活の必要なみならず、精神の充実、健康の維持、幸福の追求と深くかかわっていくことを改めて感じました。一方で経済環境が厳しさをますなかで、個々人の負担をどのように考えるか、「公共の福祉」としてどこまで財政支援すべきかなど検討する課題はたくさんあります。今回の「鉄道と人権」のフィールドワークは、「人権としての交通」というテーマに置き換えて考えることで、糸島での暮らしと福祉に直結する、とても重要な学びとなりました。



人権映画祭のご案内

【引津会場】

入場無料！



日時：12月 2日(土) 13:30～上映

場所：引津コミュニティセンター・大小研修室

上映：『桜色の風が咲く』

内容：9歳で失明、18歳で聴力を失いながらも世界ではじめて盲ろう者の大学教授となつた東京大学先端科学技術センター教授・福島智の生い立ちを描いた実話。松本准平監督作品。

主催：糸島市人権・同和教育推進協議会引津支部



出演：小雪・田中 偉登・吉沢 悠・吉田 美佳子・山崎 竜太郎・朝倉 あき・リリー・フランキー 他

人権映画祭のご案内

【会場】

入場無料！



日時：12月 3日(日)13:30～上映

場所：姫島公民館

上映：『荒野に希望の灯をともす』

内容：20年以上に渡り撮影した映像素材から
医師中村哲の生き様を追うドキュメンタリー
の完全版！百の診療所より一本の用水路を

主催：糸島市人権・同和教育推進協議会引津支部



上映終了後に、姫島行政区・人権・同和教育研修会を開催いたします。